

志 ～主体的に他者や自己と対話しながら、深い学びのできる人間を育てる～			
(1)学びとキャリア教育の充実	(キャリア教育の充実・学力の向上・授業力の向上)		
(2)心と体の教育の充実・生きる力の育成	(豊かな心の育成・規律ある態度の育成・いじめの防止・生きる力の育成)		
(3)魅力ある学校づくり	(開かれた学校づくり・学校評価の改善)		

※項目1～22のすべてについて回答してください。
評価A→4 B→3 C→2 D→1
(マークカードにマークする際の基準)

重点目標に関わる本年度努力事項と具体的取組(その1)											上段 下段	H30評価 (H29評価)		
重点目標1：学びとキャリア教育の充実		主担当	目標及び計画		これまでの成果		評価A	評価B	評価C	評価D	項目 No.	評価点 5段階換算		
(年度努力事項)		総合学科部	目標	キャリアプランニング能力、人間関係形成・社会形成能力の向上を図るとともに、将来への展望を明確にすることで、学習意欲の向上につなげる。	・各年次の生徒に「生き方を考える」授業を年間を通して展開した。 ・「産業社会と人間」の授業では、上級学校訪問、プロフェッショナルin有馬等で、卒業後の進路や働くことについて深く考える機会となった。またグルー プワークや発表を通してコミュニケーション能力を向上させることができた。 ・「WILL総合的な学習の時間」では夏季課題として「職業人インタビュー」を実施した。事前学習として社会人講話やマナー学習、事後指導として発表の場を設け振り返りを行い、多くの職業人の方から自己の将来の進路選択を含め生き方について考察する機会を得た。また、春に「新聞読み解き講座」を実施し、秋の小論文指導につなげ、社会により関心を向かせる機会を増やした。また、3年0学期に向けて自己の成長を振り返る時間として自己PRの講義とスピーチを行った。 ・「課題研究」では前年度に全体編・講座編の2回のガイダンスを実施することでスムーズに調査・研究をスタートさせ、課題の解決を図る能力を身に付けるよう実践した。		授業実践により、生徒のキャリアプランニング能力、人間関係形成・社会形成能力および、学習意欲が向上した。	授業実践により、生徒のキャリアプランニング能力、人間関係形成・社会形成能力および、学習意欲が概ね向上した。	授業実践により、生徒のキャリアプランニング能力、人間関係形成・社会形成能力および、学習意欲があまり向上しなかった。	授業実践により、生徒のキャリアプランニング能力、人間関係形成・社会形成能力および、学習意欲が向上しなかった。	1	4.2 (4.1)	4.3 (4.1)	
キャリア教育の充実			計画	つけたい力(目標)と成果を明らかにするよう、授業計画を見直しながら、「産業社会と人間」、「総合的な学習の時間」、「課題研究」を授業計画に基づいて実施する。										
(目指す姿) 特色学科の利点を生かした教育活動を展開することで、生徒の職業的(進路)発達を促し、自己実現、進路実現を図る。	(現状) 「産業社会と人間」、「総合的な学習の時間」、「課題研究」、「実習」等を中心に、生徒に将来の生き方を探究させ、生きる力を身につけさせる活動を計画的に実施している。		農業部	目標	(1)専攻班別の課題研究を実施し、生徒の専門性、職業的(進路)発達を促す。 (2)阪神農業改良普及センターと連携した農業者特別授業、先進地見学、農業インターンシップを実施し、生徒の専門性、進路意識を向上させる。 (3)各種団体が企画する海外研修への参加者を多く輩出する。	・普及所との連携事業、都市農業インターシップ(専業農家)に、1年生2名、2年生2名が参加した。また、近隣の農家でも生徒が自主的に研修を行っている。(イチゴ、黒枝豆の栽培農家など) ・普及所との連携事業、農業者特別授業を6月13日に3年生を対象に実施(ウメ・クリ専業農家 小仲正章様)、9月11日には2年生を対象にバスカルさんだ、県立フラワーセンター、次世代型農業兵庫ネクストファームのバス見学を実施した。年明けには1月17日に1年生対象の講座を予定しており、在学中を通した生徒のキャリア教育として意義のある授業が実践できた。 ・三田市との連携事業、ひょうごコミュニティービジネスフォーラム(儲かる農業の実践)に生徒7名が参加した。 ・兵庫県若手地域農業リーダー育成ブラジル研修5名参加、アメリカ農業研修2名参加、高校生のための生き物調査体験ツアーin台湾1名参加、マレーシア植林研修1名参加など海外研修に多くの生徒が参加した。		専攻班別で充実した課題研究に取り組み、連携事業を全て実施した。また、多くの生徒が海外研修に参加し、専門性を向上させ、職業的(進路)発達を促すことができた。	専攻班別で課題研究に取り組み連携事業を概ね実施できた。また複数の生徒が海外研修に参加し、専門性を向上させ、職業的(進路)発達を概ね促すことができた。	専攻班別で課題研究に取り組んだが、連携事業はあまり実施できなかった。また海外研修に参加した生徒も少人数で、専門性を向上させ、職業的(進路)発達を促すことがあまりできなかった。	専攻班別で研究に取り組むことができず、連携事業も実施できなかった。また海外研修に参加した生徒もおらず、専門性を向上させ、職業的(進路)発達を促すことができなかった。	2		4.6 (4.3)
				計画	(1)3年生における専攻班別(野菜・草花・環境)課題研究の実施。 (2)農業者特別授業、先進地見学を年3回実施。夏季休業中の農業インターンシップ実施。 (3)農業関連産業への就職、農業関連学科への推薦入試を利用した進学を見据え、1.2年生における海外研修への参加を積極的に推奨する。									
		進路指導部	目標	低学年の間に将来の目標により近づける進路を考えさせ、3年生でその進路希望が実現できるようにサポートを充実させる。	1年生：3月の大学模擬授業等を通して進路目標を具体化できるように指導していきたい。 2年生：7月の分野別ガイダンスでは、それぞれの進路へ向けての理解と意識を深めた。12月に看護医療志望者を対象にガイダンスを実施した。今後も3年生0学期に向けて意欲を高めていきたい。 3年生：7月に国公立・難関私大講座を行い、夏休みを高いモチベーションで過ごせるように努めた。10月・11月に職員による推薦入試サポートに加えて、外部講師による看護医療面接講座を実施し、好調だった前年よりもさらに良い結果が得られた。		各講座・サポートの時期や内容が効果的であり、生徒の進路意識の向上につながった。	各講座・サポートがある程度の意識向上につながったが、改善の必要もある。	予定していた講座が開講されたが、改善点が多々あり、生徒の意識向上にはつながらなかった。	予定されていた講座がほとんど開講されなかった。	3	4.1 (3.8)		
			計画	(1)1年生 進路講演会(12月) 大学模擬授業(3月)など (2)2年生 分野別ガイダンス(7月) 学校別ガイダンス(3月) 進路講演会(12月)など (3)3年生 大学別入試説明会、国公立・難関私大対策講座(7月) 進学・就職等講座推薦入試サポート 看護医療系集中講座 など										
(年度努力事項)		学力向上委員会	目標	スタディーサポート、進研模試の結果などから生徒の学習時間や学力の実態を把握し、その向上に努める。新入試を見据えて外部検定試験を積極的に導入し、意欲の向上や学習習慣の確立、家庭学習時間の増加を図る。	・進研模試やスタディーサポートについて分析結果を職員会議で報告し、課題や成果を全職員で共有することに努めた。 ・12月に1年生を対象にGTec(英語4技能検定)を実施した。 ・また、希望者を対象に6月と2月に漢字検定を実施した。		取り組みを通して、生徒の学習意欲は全体的に向上した。	取り組みを通して、生徒の学習意欲はある程度は向上することができた。	取り組みを行ったが、ほとんどの生徒の学習意欲は向上しなかった。	取り組みを行ったが、生徒の学習意欲は上らなかった。	4	3.8 (3.6)	3.8 (3.9)	
学力の向上			計画	(1)年2回スタディーサポートを通して学習リサーチを行う。 (2)学年や教科と連携してGTecを導入し、漢字検定を年2回実施する。										
(目指す姿) 生徒の実態を踏まえて個に応じる教育を充実させ、授業改善を実施することで生徒の学力の向上に努め、生徒一人一人の夢を実現させる。	(現状) 主体的に学ぶ意欲の涵養と学力のさらなる向上のために、家庭学習習慣の確立や面談、少人数指導、小テスト、補習等の取組を推進し、個に応じた指導を図っている。		1学年	目標	授業の予習・復習や小テストを確実にこなす中で家庭学習の習慣を定着させる。学習への意欲を高め、基礎学力を定着させる。新テストに対応したポートフォリオの活用指導。	・初期学習で学んだ学習方法が定着するよう、朝補習は3科目(英・数・国)、週末課題等を積極的に取り入れた。 ・模擬試験やスタディーサポートでは、事前・事後の指導を行い、特に振り返りに力を入れ、苦手な分野や今後の具体的な目標を意識させた。 ・GTecスコア型英語4技能検定に向けて事前・事後指導を行った。		多くの生徒に家庭学習の習慣が付き、日々の課題提出や予習・復習が確実にできる。ポートフォリオの活用が充分に出来ている。	多くの生徒が与えられた課題提出は確実にできるがそれ以上のことはできない。ポートフォリオの活用が出来ている。	課題提出ができる生徒もいるが、できない生徒も半数はいる。ポートフォリオの活用している生徒は半数である。	ほとんどの生徒が家庭学習をせず、課題提出ができない。ポートフォリオの活用が出来ていない。	5		3.8
				計画	長期休業補習(7・8・12・3月) 朝補習(6月～3月) 平常・長期休業課題 小テスト 科目選択説明会(7月) ポートフォリオ研修(LHR)など									
		2学年	目標	将来の進路を意識させる事で学習意欲を高め、家庭学習時間の増加と学力の向上を図る。自ら学ぶという意欲を育てる。	・平常の授業、課題や小テストに加えて、補習や朝学習を継続して行い、基礎学力の向上に努めた。 ・各種ガイダンスやオープンキャンパスへの参加を行い進路意識の向上を図った。 ・模擬試験やスタディーサポートでは、事前・事後の指導を行い、苦手な分野や今後の具体的な目標を意識させた。		多くの生徒が進路実現に向け、次年度のために必要な学力を定着させようとする姿勢が見られた。	多くの生徒の学習に対する姿勢は良いが、良くない者も半数はいない。	学習に対する姿勢が良い者もいるが、良くない者も半数はいる。	ほとんどの生徒の学習に対する姿勢が良くない。	6	3.9 (3.9)		
			計画	平常補習(早朝・放課後) 長期休業補習(7・8・12・3月) 平常・長期休業課題 小テスト 進路検討会(6月) など										
		3学年	目標	自己実現を図るために必要な学力を定着させる。生徒に高い進路目標を持たせ、進路実現に向けて計画的に学習する習慣を身につけさせる。	・進学希望者には長期休業中はもちろん、平常の早朝・放課後補習の充実を図り、9月末からは全教職員で推薦入試に向けた小論文・面接指導を行った。 ・学習室の利用を積極的に勧め、放課後や休日に多くの生徒が活用した。 ・今後も一般入試に向けた対策補習にも力を入れ、最後まで少しでも高い目標にチャレンジさせたい。		多くの生徒が自己実現を図るために、計画的に学習する習慣を身につけることができた。	計画的に学習する習慣を身につけることができた生徒はいたが、できなかった者も半数はいた。	計画的に学習する習慣を身につけることができた生徒が少しかいかなかった。	ほとんどのの生徒が計画的に学習ができず、安易な進路に流れてしまい努力できなかった。	7	3.9 (3.7)		
			計画	一般入試対策補習(2・3月) 入試検討会(7・12・1月) など										
(年度努力事項)		学力向上委員会	目標	公開授業週間において、研究授業を中心に教員間で互いの授業を見学し、指導力の向上を図る。また研究授業、授業研究教科会において指導方法の共有や生徒の学力向上、学ぶ意欲の育成について検討する。また授業アンケートを通して、教員の資質・能力の向上を目指す。	・6月の公開授業週間では教科ごとに研究授業を行い、授業研究教科会を実施して意見交換をおこなった。また11月には教科の枠を越えて自分の教科以外の研究授業を見学し、グループごとに授業研究会を行った。 ・5月は本校保護者を対象に、また10月にはオープンハイスクールと絡め中学生やその保護者等を対象に授業公開を行い、本校の授業の様子を見学していただいた。 ・7月に全講座を対象とした生徒による授業アンケートを行い、以後の授業の展開や工夫につながるようにした。12月には各授業担当者が自ら講座を選び、アンケートを行い授業を振り返る機会とした。		授業の公開や研究授業の見学、授業アンケートなどにより、授業を行う上での意識や指導力の向上につながった。	授業の公開や研究授業の見学、授業アンケートなどにより、授業を行う上での意識や指導力の向上にあまり程度つながった。	授業の公開や研究授業の見学、授業アンケートなどにより、授業を行う上での意識や指導力の向上につながらなかった。	授業の公開や研究授業の見学、授業アンケートなどにより、授業を行う上での意識や指導力の向上につながらなかった。	8	4.1 (3.9)	4.2 (3.9)	
授業力の向上			計画	(1)6月と11月に公開授業週間を設け、教員間で互いの授業を見学する。またその期間中に各教科で研究授業を行う。 (2)公開授業週間の最終日に授業研究教科会を行い、意見交換を行う。 (3)7月は全講座対象に、12月は講座を選択して授業アンケートを行う。										
(目指す姿) 教職員の資質・能力を向上させ、教育課程の編成と運用に創意工夫をすすめることで、生徒に確かな学力を確実に定着させる授業づくりを協働的に推進する。	(現状) 授業アンケートを実施し、客観的な授業分析を行うことで授業改善に努めている。また、教科会の充実や教育課程の見直しによる授業改善を行っている。		教育課程委員会	目標	国公立大学・難関私立大学進学から専門学校進学、就職まで多岐にわたる進路選択に対応できる教育課程を編成し運用していくとともに、配置された科目の内容についてもより充実を図っていく。	・平成31年度入学生教育課程について、人と自然科と総合学科それぞれの特色に基づき教育課程を検討した。より高い進路目標の実現や魅力のある科目の選択を可能にした教育課程を編成して科目選択を行っている。 ・人と自然科の教育課程については、現行の配置されている科目の内容の充実を図り、大きな変更はおこなわなかったが、理科について必要な学習分野を考慮し、学校設定の演習科目を変更した。 ・総合学科の教育課程については、家庭と商業の科目について、生徒の関心の高さや、分野のバランスを考え、新たな科目の配置と既存の科目の配置変更をおこなった。 ・平成31年度開講科目については、現状の生徒・職員の定数も勘案しながら、少人数制授業など、できる限り多くの講座が開講できるよう努めた。		多様な進路選択に対応する教育課程の編成と、教科においてその内容についての共通理解及び目標に応じた科目の内容を充実させることができた。	多様な進路選択に対応する教育課程の編成と、教科においてその内容についての共通理解及び目標に応じた科目の内容を充実させることがあま程度できた。	多様な進路選択に対応する教育課程の編成と、教科においてその内容についての共通理解及び目標に応じた科目の内容を充実させることがあま程度できなかった。	多様な進路選択に対応する教育課程の編成と、教科においてその内容についての共通理解及び目標に応じた科目の内容を充実させることができなかった。	9		4.2 (4.0)
				計画	(1)平成31年度入学生教育課程について、学科の特色に基づいた思考力・判断力の伸長を図り、基礎基本の定着や、高い進路目標の実現を目指した教育課程を編成する。 (2)教科会を定期的に行い、カリキュラムの内容や学年ごとの授業の到達度などを教科内で確認し、適切な指導につなげていく。 (3)教育課程に配置された科目について、それぞれの科目の目標を教科内で共有し、より内容を充実させていく。									

重点目標に関わる本年度努力事項と具体的取組(その2)

上段 H30評価
下段 (H29評価)

重点目標2: 心と体の教育の充実・生きる力の育成		主 担 当		目標及び計画		これまでの成果		評価A		評価B		評価C		評価D		項目 No.		評価点 (5段階)	
(年度努力事項)		豊かな心の育成	具 体 的 な 取 組	生徒指導部	目標	生徒会活動を活性化し、生徒の自主・自立のもとに諸行事の企画運営ができる。 1年次は全員部活動に入部して校内の活性化を目指す。	・1学年の生徒の部活動加入は定着した。当たり前のことであるが、転部・退部する生徒が増えてきている。 ・委員会活動については、各委員会で行動目標を策定し取り組むことで責任感が生まれている。	生徒会活動や部活動が積極的に行われ、生徒一人一人がその活動を通して成長し、他者を思いやる心の育成ができています。	生徒会活動や部活動が行われ、生徒一人一人がその活動を通して成長している。	生徒会活動や部活動が積極的に行われている。	生徒会活動や部活動が積極的に行われていない。	10	3.7 (3.7)	4.1 (4.0)					
					計画	(1)各委員会が校内での諸問題を認識し、それらを改善できるよう委員会活動を自主的に行えるよう促す。 (2)生徒会行事を活性化させる。 (3)2学年になっても引き続き部活動に参加するよう促す。													
(目指す姿) 多文化教育や個性と人権を尊重する多様で柔軟な教育を推進する。国際的な視野で、命と人権を大切にし、人としてともに生きる心を育てる。	(現状) 人権教育や国際理解教育、体験活動、主体的な生徒活動等を通じて、確かな国際性や豊かな心を育成する教育活動を展開している。			総務・広報部	目標	各学年別の人権教育目標を柱として人権LHRや人権講演会を実施し、生徒支援の資質向上を図る。	・第1回人権HRを7月に実施した。主題:1年「高校生としての視点から人権問題を考える(権利の熱気球)」 2年「アサーティブネスに考え、行動するわたしになる」 3年「就職の公正な採用選考について、何が大切なのか考える」 方法:学年毎に職員事前研修を行い、ティームティーチングにより実施した。 ・職員向けに「性的マイノリティ」に関する人権研修会を9月に実施した。国内外における最近の動向などを紹介し、正しい理解に役立てた。 ・10月に全校生を対象に人権講演会を開催。講師:仲島正教氏。テーマ:「あーよかったなあなたがいってつながりと感動 そして夢を〜」。他者理解や人権について考えるよい機会となった。講演会後の作文で優秀だった生徒が、市内高校生を代表し、市の大会に於いて発表を行った。	職員の事前研修が計画的に行われ、生徒の到達目標に応じたLHRが実施できた。	職員の事前研修または、LHRの内容のどこからかに改善の余地がある。	職員の事前研修は不十分で、LHRの実施内容も改善の余地がある。	職員の事前研修は実施されていない。LHRの運営も、十分な体制がとれていない。	11	4.3 (4.2)						
					計画	(1)年間3回の人権LHRを実施する。 (2)人権LHR事前打合せとして研修会を実施し、教師の人権教育の指導力向上を図る。													
						総務・広報部	目標	国際化社会、多文化共生社会に生きる豊かな人間性の涵養を目指す。国際交流事業を通して、全校生徒の異文化理解を深める。	・7月27日から8月5日まで、オーストラリア短期研修を生徒18名の参加で実施した。事前・事後研修、報告会も計画通り行い、参加者にとって非常に充実した研修となった。また、2019年1月17日から1月22日には、オーストラリアからの訪問団を受け入れ、学校全体で交流する予定である。 ・短期研修の内容は全校集会で、姉妹校との交流の様子は秋季オープンハイスクールで中学生や保護者に報告し、異文化理解や本校の国際交流への理解を深めることにつなげた。良い反応があり、来年度のマレーシア研修への参加希望者の増加が期待できる雰囲気を作ることができた。	研修参加者を含む全校生徒の異文化理解が深まった。	研修参加者だけでなく、一般生徒にも異文化理解がほぼ深まった。	研修参加者の異文化理解は深まったが、一般生徒の異文化理解があまり深まらなかった。	研修参加者を含む全校生徒の、異文化理解があまり深まっていない。		12	4.1 (3.9)			
							計画	(1)事前・事後研修会の実施 (2)オーストラリア短期研修生の派遣及び姉妹校(オーストラリア)訪問団の受け入れ (3)報告会の実施 (4)報告冊子の作成											
		保健相談部	目標	個人面談やキャンパスカウンセラーを活用し、生徒の内面理解に基づく指導を推進する。 教員対象のカウンセリングマインド研修会を実施し、生徒支援の資質向上を図る。	・生徒の内面理解と生徒支援のための資質の向上を推進中である。年26回のカウンセラーの来校は生徒の心とからだの成長に大きなちからとなった。 ・5月と10月にカウンセリングマインド職員研修会を開催した。事例検討や面談におけるコミュニケーションとその力についてなど、職員の面談力を高める内容を設定し、生徒理解を深める研修会は有効であったと思われる。 ・生徒や職員から受ける相談について多角的に対応できる体制に努めている。 ・各学年主任・生徒指導部長他との情報の共有を行い、組織的な対応につなげている。	様々な相談ニーズに対応できる体制があり、円滑に運営できた。職員研修会が計画通り実施できた。	相談体制は整備されているが、十分活用されていない。職員研修会は行われているが、改善の余地があった。	相談体制が十分でなく、ニーズに応えられていない。2度の研修会が実施できなかった。	体制が不備で、相談に応じられていない。研修会が実施できていなかった。	13	4.6 (4.2)								
			計画	(1)年間26回のキャンパスカウンセリング実施する (2)年間2回の職員研修会を開催する (3)各学年主任・生徒指導部長・保健相談部との生徒情報交換会を活用し、個々の事例について早期に対応する。															
(年度努力事項)		規律ある態度の育成	具 体 的 な 取 組	教務部	目標	生徒の自主性と教員のはたらきかけの両面から落ち着いた雰囲気を作り、生徒の学習意欲の向上に共通理解を持ってあたる。また学習スケジュールを中心とした自己管理ができる生徒を育成する。	・着任者オリエンテーションや4月の職員会議での教務上の確認事項を含め、学年や教科担当の先生方に、学習環境や授業規律を意識した上での学習指導を行っていただいている。校務支援システムの導入2年目になり、より正確な成績処理・出席管理をおこなう意識が高まった。 ・有高手帳を全校生徒が持ち、学習計画や提出物の確認などを中心に各自のスケジュール管理をおこなっている。自己を管理する態度や意識が定着してきている。	授業規律を守り、落ち着いた雰囲気の中で、規律ある学習習慣や自己管理ができる姿勢を身につけることができた。	授業規律を守り、落ち着いた雰囲気の中で、規律ある学習習慣や自己管理ができる姿勢を身につけることがあまりできなかった。	授業規律を守り、落ち着いた雰囲気の中で、規律ある学習習慣や自己管理ができる姿勢を身につけることができなかった。	14	4.1 (4.2)	3.7 (3.9)						
					計画	(1)学習環境を整え、授業規律等の目線を合わせて指導する。 (2)「有高手帳」を活用し、学習計画や課題内容、提出物の期日確認など、自己管理ができるように働きかける。													
(目指す姿) 社会において必要となる規律ある態度や意識を学校活動において育成し、ふれあいに基づいた教育活動を推進することで、社会性や自主性・自立性の育成に努める。	(現状) 生徒指導方針に基づき、生徒の服装・頭髪・校門指導等についても、全教職員による共通理解の下、統一した生徒指導を実践している。	生徒指導部 学年	目標	(1)生徒一人ひとりが基本的生活習慣を確立することを目指す。具体的には、遅刻者をゼロにするための指導を行う。 (2)校則にのっとった学校生活を送る態度を身につけさせる。 (3)各種の学校行事に意欲的に参加させ、人間的なふれあいのもとで社会性の育成を育む。	・朝の登校指導については、遅れそうになる生徒が駆け足で校門を通過するなど、遅れることに対する抵抗感が生徒 個々に見られるようになってきた。遅刻者の数は、学年ごとに多様な対策をとられるなどの協力が得られた結果、前年度同様減少傾向を保つことができているが、定期的に急増することもある。 ・行事に臨む姿勢もその場に合わせた態度をとることができており概ね良好である。生徒会役員の指示を聞きながら会に臨む雰囲気ができている。 ・落ち着いた学校生活を送っており、校則も守ることができている。服装等においても大きく乱れた生徒はほとんど見られない。 ・調査期間前後に地域の公共施設や大型商業施設を巡回して生徒の情報を収集し、学校近隣地域における生徒の施設の利用態度等の苦情は減少してきた。	生徒指導部と学年が協働してすべての生徒が、8時25分までに正門を通過できた。生徒指導のガイドラインや指導項目について十分に周知することができ、それをもとに生徒個々に確実に指導ができた。全校集会などで生徒会役員と生徒が自主的に整然と整列などを行い、進行ができた。	生徒指導部と学年が協働してすべての生徒が、8時30分にHR教室に入ることができた。生徒指導のガイドラインや指導項目について十分に周知することができ、それをもとに生徒個々に指導が概ねできた。全校集会などで生徒会役員や職員の指示に従い整列などを行い進行できた。	生徒指導部と学年が協働してすべての生徒が、8時30分にHR教室に入ることができなかった。生徒指導のガイドラインや指導項目について周知することが不十分であるが生徒個々に指導することができた。全校集会などで生徒会役員や職員の指示に従い整列などを行い進行できた。	生徒指導部と学年が協働して生徒が、8時30分にHR教室に入るための努力がなされなかった。生徒指導のガイドラインや指導項目について周知することが不十分で生徒への指導が十分できていなかった。全校集会などで生徒会役員や職員の指示があっても、整列に時間がかかり私語がやまなかった。	15	3.2 (3.6)								
					計画	(1)年度当初に生徒指導ガイドラインを全教職員に説明し、服装指導等の指導方針の共通理解・共通の指導体制を図る。 (2)制服の移行期間等その都度点検項目や注意項目をわかりやすく周知する。 (3)前日の遅刻状況を学年ホワイトボードに記入して状況を把握しやすいようにする。 (4)学年や地域との連携を深め個々の問題に対して早期に指導に当たる。													
(年度努力事項)		いじめの防止	具 体 的 な 取 組 み	いじめ対策委員会	目標	未来を担う人としての自覚を持ち、豊かな創造性と深い人間愛の精神を身につけ、自らが主体的に判断し行動する心豊かでたくましい人間育成をめざす。	・6月・11月に2回、記名式で「いじめに関するアンケート」を実施した。全学年認知は0である。いじめにつながる行為として1件指導をした。 ・職員に対する「カウンセリング・マインド」の研修会を保健相談部との連携で実施し、いじめの早期発見の手法やいじめの対応に係わる教職員の資質向上の機会となった	いじめ防止に対して、生徒自ら問題解決するために必要な思考力・判断力・表現力を高め、主体的に判断し行動できる態度を養うことができた。	いじめ防止に対して、生徒自ら問題解決するために必要な思考力・判断力・表現力を高め、主体的に判断し行動できる態度を養うことが概ねできた。	いじめ防止に対して、生徒自ら問題解決するために必要な思考力・判断力・表現力を高め、主体的に判断し行動できる態度を養うことが十分できなかった。	16	3.9 (3.9)	3.9 (3.9)						
					計画	いじめ防止の観点から、学校教育活動全体を通じて、いじめ防止に資する多様な取り組みを体系的・計画的に行う。いじめの早期発見の在り方、いじめ対応に係わる教職員の資質能力の向上を図るため校内研修を実施する。 ①いじめ対応チーム会議の実施 ②いじめ実態アンケートの実施(6月・12月) ③QUの実施(6月) ④カウンセリングマインド研修会の実施(年2回) ⑤生徒・保護者に対する、いじめ基本方針の周知徹底 ⑥いじめ防止基本方針の見直し													

(年度努力事項)		具体的な取組み	総合学科部	目標	習得した知識や技能を活用して、自ら課題を解決させるために必要な思考力・判断力・表現力などを育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養う。そのために、言語活動の充実、見通しや振り返り、人間としての在り方生き方を考える授業を展開する。	・「産業社会と人間」I・WILL総合的な学習の時間」における、上級学校訪問、プロフェッショナルin有馬、職業人インタビューといったプログラムを実施し、主体的に自らの将来を考え学習に向かう機会とした。 ・1年次生において「コミュニケーショントレーニング」を実施し、意見の異なる相手に自分の考えを理解してもらう、相手の話をよく聞き話を発展させていく力を養った。 ・2年次生において「言語力ドリル」を導入し、論理的に情報を読み取り、考える時間を設けた。 ・上級学校訪問、プロフェッショナルin有馬、職業人インタビューといったプログラムにおいてインタビュー活動を実践し、生徒は主体的に取り組むことができた。 ・上級学校訪問発表会、1分間スピーチ、2分間スピーチ、職業人インタビュー発表会、課題研究発表会を実施し生徒が人前で伝えたいことをわかりやすく伝える力を身につける機会となった。	生徒自ら課題解決するために必要な思考力・判断力・表現力や主体的に学習に取り組む態度を養う授業を実施することができた。	生徒自ら課題解決するために必要な思考力・判断力・表現力や主体的に学習に取り組む態度を養う授業を実施することが概ねできた。	生徒自ら課題解決するために必要な思考力・判断力・表現力や主体的に学習に取り組む態度を養う授業を実施することが十分できなかった。	生徒自ら課題解決するために必要な思考力・判断力・表現力や主体的に学習に取り組む態度を養う授業を実施することができなかった。	17	4.2 (4.2)	4.3 (4.2)	
生きる力の育成				計画	(1)自らのキャリアデザインを考えることを軸とする授業、「産業社会と人間」、「総合的な学習の時間」の実施 (2)コミュニケーショントレーニングの実践 (3)インタビュー活動の実践 (4)各種発表会の実施									
(目指す姿) 特色ある学科の利点を生かした教育活動を推進することで、夢や志を抱き、自らの豊かな未来を切り開く「生きる力」育む充実した教育活動を展開する。	(現状) 学科の特色を生かし、人間的なふれあいや自然との関わりを数多く経験することで、生徒たちは社会性や自主性・自立性を身につけている。		農業部	目標	(1)学科の特色である体験学習を中心に主体的に活動できる生徒の育成を図る。 (2)授業や学校農業クラブ活動を通して、様々な地域貢献活動に積極的に参加する。 (3)県立人と自然の博物館や県立有馬富士公園などの地域資源を活かして、思考力・判断力・表現力を育成する教育を実施する。	・人と自然の博物館との連携セミナー、チャレンジ教室(フラワーアレンジメント、クラインガルテン)、有馬富士公開セミナーなど、関係機関や地域と連携した授業を計画通り実施し、地域資源を有効に活用して生徒のスキルアップや問題解決能力を向上させることができた。 ・学校農業クラブ活動を通して、田植え、稲刈りボランティアにおける都市部園児との交流事業、丹南精明園、有馬高原病院などの福祉施設、三田警察署、消防署など公共施設での植栽活動を精力的に実施し、日頃の学びの深化につなげることができた。 ・ひょうご農業女子との交流会や拠点農業高校による農業先端技術支援事業に積極的に生徒を派遣し、生徒の思考力、判断力の向上につなげることができた。また、ひょうご産業教育フェアやひょうごまちなみガーデنشヨウ、淡路花博などの各種イベントに農産物販売や花壇作庭などにも参加し、生徒の社会性や表現力、コミュニケーション能力の向上につながった。	各事業を計画的に実施できた。活動も生徒が主体的に取組み、思考力・判断力・表現力を十分育むことができた。	各事業をおおむね計画的に実施できた。活動も生徒が主体的に取組み、思考力・判断力・表現力を育むことができた。	事業によっては計画的に実施できず、生徒の取り組みも不十分で、思考力・判断力・表現力を十分育むことができなかった。	各事業が計画通り実施できず、生徒の思考力・判断力・表現力を育むことができなかった。	18	4.5 (4.4)		
				計画	(1)人と自然の博物館連携セミナー(人と自然科1年生)年間8回 (2)ありまふじ公園公開セミナー(人と自然科3年生)年間26回 (3)三田警察署・三田消防署・障がい者施設などの花壇緑化運動 (4)田植え・稲刈りなど、農業を通した園児との交流活動の推進。									
			進路指導部	目標	就職・進学を問わず、インターンシップ参加率をあげ、進路を考えるよい機会とする。	・2学年・4月に「有高インターンシップ報告会」を開催し、インターンシップへの周知を図ったが、夏休み中に開催される「県庁インターンシップ」「ときめき職業体験」等への参加者は無かった。10月から始まった「有高インターンシップ講座」、1～2月に実施予定の「有高インターンシップ」の参加希望者も例年に比べると減少している。今後も粘り強く生徒の職業観の育成に努めていきたい。 ・3学年・生徒が高校入学当時から憧れてきた職業のインターンシップ先を開拓し、就職に結びつけることができた。インターンシップが生徒の進路実現に役立ったと感じる。	事前指導の中で生徒が十分準備をして臨んだ。体験を通して学んだことを報告会で発表し、それが進路実現に向けての指針となった。	事前指導が行われたが生徒が準備不足ではあった。体験する中で充実感を得て報告会でもその姿勢が見れた。	事前指導が行われたが、不十分で体験もあまり充実しなかった。	事前・事後指導が行われず、体験も充実したものにならなかった。	19	4.2 (4.0)		
				計画	(1)2年生が3年生の有高インターンシップ報告会に参加する。 (2)県庁インターンシップ (3)有高インターンシップ講座(10・11・12・1月) (4)有高インターンシップ実施(1月～2月)									

重点目標に関わる本年度努力事項と具体的取組(その3)

上段 H30評価
下段 (H29評価)

重点目標3： 魅力ある学校づくり		主担当		目標及び計画	これまでの成果	評価A	評価B	評価C	評価D	項目No.	評価点 (5段階)		
(年度努力事項)		開かれた学校づくり	総務・広報部	目標	オープンハイスクールや公開授業、学校行事など、学校を公開する場を活性化させ、積極的に外部の意見を取り入れる。その結果として、本校への志願者増につなげる。	・夏季及び秋季オープンハイスクール、公開授業には、合計で約1200名の参加を頂き、本校の特色をアピールし、学びの様子を実際に観ていただいた。参加者の多くの方々から好評をいただき、現時点(12月1日)での本校入学希望者は、両学科とも定員を超え、特に総合学科で249名と、募集定員200名に対して一定の評価を得ているものと考えらる。これは、長年にわたる各部署・学年団、学校全体の取り組みが、中学校や地域に理解され、評価を得ているということであろう。 ・今後は、12月25日に実施の「冬季学校説明会」、平成31年2月2日実施予定の「学習活動発表会」に向けて、入念に準備を進めていく。特に、学習活動発表会については、本校の取り組みを知っていただくうえで絶好の機会であり、多くの中学生に参加してもらえるよう、各中学校に掲示していただくポスターを作成するなど積極的な広報活動に努める。	オープンハイスクールや公開授業、学校行事など、学校を公開する場に多くの人が参加し、有馬の魅力をアピールすることができた。「学習活動発表会」への参加者が大幅増となった。	オープンハイスクールや公開授業、学校行事など、学校を公開する場に多くの人が参加し、有馬の魅力をアピールすることができた。	オープンハイスクールや公開授業、学校行事など、学校を公開する場に多くの参加者が少なかった。	20	4.4 (4.2)		
				計画	(1)保護者会、授業公開を充実させる。 (2)中学校関係者に対しての年4回のオープンハイスクールのPRを工夫し、オープンハイスクールの内容も充実させる。								
(目指す姿) 有馬高校の特色、魅力ある取組を積極的に提供することで、学校としての説明責任を果たし、地域に信頼される学校づくりを推進する。また、家庭や地域との連携を深め、開かれた学校づくりを推進していく。	(現状) ホームページの刷新やブログの積極的な発信等を通じた広報活動の充実を図っている。今後も、外部の方々の意見を活かしながら、一層魅力ある学校づくりに努める。	具体的な取組	HP・情報委員会	目標	学校ホームページで、活発な情報発信を行う。	・ブログでの情報発信活性化のために、全教職員分のユーザーIDを年度当初に発行した。 ・情報委員会及び職員会議において、各ユーザー最低1回のブログ発信目標を伝達した。 ・多くの教職員の協力の下、学習活動成果や学校行事、更にはクラブ活動報告など、学校生活の様々な場面の情報発信ができた。 ・気象警報発令等学校の緊急時の情報発信にも的確に取り組めた。 ・例年のように、学校説明会の案内及び出欠を学校ホームページ上で集約することができた。	ユーザー登録をした教師の8割以上がブログでの情報発信を行った。	ユーザー登録をした教師の5割以上がブログでの情報発信を行った。	ブログでの情報発信を行った教師が、ユーザー登録をした数の5割以下であった。	HP、ブログが適切に運営されておらず、情報発信が不十分であった。	21	4.3 (3.9)	4.3 (4.0)
				計画	(1)学校ホームページの維持管理に努める。 (2)HP情報委員を中心に、部活動顧問、学年・部担当者がブログでの情報発信の方法について高い意識をもち、行事等の情報発信に努める。								
(年度努力事項)		学校評価の改善	具体的な取組	学校評価委員会	目標	(1)校内学校評価委員会を予定通り開催し(5月・11月)、本年度の学校評価について検討した。 ・職員会議において、全職員に「学校評価」の趣旨および本年度の重点目標をを説明し、学校評価を外部とのコミュニケーションツールとして活用して、教育活動、学校運営の改善を全職員で進めていくことの大切さを説明した。 ・ルーブリック型の評価基準をできるだけ統一し、よりわかりやすくするため、評価項目の文言を整理した。 ・「目標」と「計画」について、必要かつ可能な範囲で数値目標を導入することで目標の達成状況を明確にして、評価しやすいようにした。 ・7月に本年度の第1回学校関係者評価委員会を開催し、学校関係者評価委員の方々に本校の重点目標や取組計画等についてわかりやすく説明することができた。 ・全体のレイアウトを工夫することで、より見やすく評価しやすいように改善した。	学校評価が教職員間、外部とのコミュニケーションツールとしての役割を果たし、教育活動、学校運営の改善に活かされている。	学校評価がコミュニケーションツールとしての役割を概ね果たし、教育活動、学校運営の改善にある程度活かされている。	学校評価がコミュニケーションツールとしての役割や教育活動、学校運営の改善にあまり役立っていない。	学校評価がコミュニケーションツールとしての役割や、教育活動、学校運営の改善に活かされていない。	22	3.9 (3.7)	3.9 (3.7)
(目指す姿) 学校評価を教職員、外部とのコミュニケーションツールとして活用し、活力のある学校づくりを推進する。校務の適切なスクラップアンドビルドを推進し、学校改善・改革に努める。	(現状) 学校評価における改善点を重点目標に盛り込み、全職員が目標達成のためのビジョンを共有し、課題と改善策を考える意識をさらに高めることが必要である。				計画	(1)校内学校評価委員会を年4回以上実施し、学校評価の改善を推進する。 (2)学校関係者評価委員会を年2回実施し、校外の有識者の意見を参考とし、より一層の教育活動、学校運営の改善に努める。 (3)職員会議等で学校評価の重点目標についての共通理解を図り、職員が方向性をもつにして教育活動に取組む意識を高める。 (4)年度末に学校評価の結果をウェブページで公表し、本校の取組の成果をアピールするとともに次年度への改善に努める。							